

行動規範（マナー）

概要

- これらのルールは競技が公平に行われるための、選手及び審判の為の手引きである。全ての判定において、審判長が最終決定権を有する。
- 選手はルールに従って正々堂々と競技を行い、意図的に反則行為をとってはならない。罰則の多くは不意なる反則行為に適用するものである。意図的な反則行為に対しては、審判はその状況によっては、ペナルティを追加する権限がある。

一般マナー

- 選手は公平なる競技の原則に従い、公平な試合となるよう努める。
- 選手は試合に全力を尽くさなければならない。他の選手と内通し、他人の勝利のために意図的に放銃する、又は要牌を鳴かせるなどの行為は厳禁とする。暗手の内容を相手に教えることも厳禁とする（ルールに沿って公開される牌を除く）。
- 得点が大きくマイナスとなり、勝ち抜く望みが薄い場合でも、スポーツマンシップにのっとり、全力を尽くして試合に臨み、無責任な暴牌をしてはならない。
- 例えば、身体に牌を隠す、不正な牌の融通、積込み行為、得点の虚偽申告など、いかなる詐欺行為、不誠実な行為は厳禁とする。
- 選手は審判の指示に従い、試合が円滑に進行するように協力する。判決に不服がある場合は理性的に報告する。

不服報告の手順

- 審判の判決に不服がある場合、合理的な理由がある場合のみ、その場で理由を弁明してよい。
- それでも審判の判決に不服がある場合、ラウンドの終わりから 30 分以内に審判長に異議を申し立てることができる。
- 全ての判定において、審判長に最終決定権があるものとする。また試合を楽しむ上で積極的な異議の申し立ては必ずしも推奨するものではない。

試合中のエチケット

- 「鳴き」を主張する発声を除き、対局中のおしゃべりは慎む。「鳴く」ときは必ず発声をして主張することを忘れないこと。（ロン和や槓も同じ。）
- 局と局の間には多少のコメントが許されるが、隣の試合に支障をきたすので大きな声は慎む。
- 洗牌の噪音は不可避だが、配牌や打牌の時に牌をテーブルに強く叩かないこと。

試合開始にあたって

- 選手はテーブルチェンジした後に、次の相手に自分の前の成績の詳細や前の相手の成績を教えるはならない。また、選手は相手にそれらの情報を探ってはならない。

「内通」と「犠牲打牌」

- 各選手は自分の成績のために全力を尽くさなければならない。他の選手の勝利のために自己の成績を犠牲にしてまで故意に放銃し、要牌を鳴かせるなどの行為は厳禁。このような行為を「内通」といい、詐欺行為と同レベルの規則違反であり、退場及びブラックリストの罰則が適用される。
- 対局中に相手の大きい手の脅威が見える場合がある。この場合、別の相手の小さい手の和了に協力することでその脅威を解除でき、かえって有利である。そのようなプレイは「犠牲打牌」と言い、目的は大きい損失を避けるためなので、合法行為とする。
- 相手の大きい手の脅威が見えるが、自分の手も大きく、しかも和がるチャンスが高い（聴牌もしくはそれに近い）というケースもある。このような場合、自分の手を放棄したくないことから、危険牌を打つリスクを冒すことは、合法行為とする。
- 選手は得点が大きくマイナスとなり、勝ち抜く望みが薄い場合でも、スポーツマンシップにのっとり、全力を尽くして試合に臨まなければならない。無責任な暴牌は「内通」の疑いを招く。